

個 体 情 報 の 見 方

左ページの解説

1 JRA育成馬の05

牡・黒鹿 父 デザートキング

入きゅう	06年8月17日	月 日	病 歴
馴致開始	06年9月17日	07年	
測 尺	10月末日 → 4月11日	3月10日	左前管骨々膜炎(既往・X線写真あり)
体 高	151.0	159.0	
胸 囲	172.0	181.0	
管 囲	19.5	20.5	
体 重	450	492	馬装具 特殊鞍下(中抜き)
ゲート	目標クリア	装 蹄	両前エッグバー・両後タイロックス
悪 癖	熊癖	その他	右陰嚢・注射注意

育成場からのコメント

購買時より父デザートキングを髣髴とさせる雄大でがっしりとした馬格を持つ。大柄な馬体であり実が入るまでじっくりと乗り込んできた。春を迎え馬体の充実とともに動きに軽快さと躍動感が出てきた。近親には芝の中距離馬の活躍が多く、芝での活躍を期待。

最近の調教概況

* 印:屋内坂路馬場を使用もしくは併用

月 日	3/19	3/20	3/21	3/22	3/23	3/24
駈歩(m)	2800	3200	1600	2800	2800	1600
タイム						
月 日	3/26	3/27	3/28	3/29	3/30	3/31
駈歩(m)	2800	1600	1600	*1900	1600	1600
タイム				17.7-16.1		
月 日	4/2	4/3	4/4	4/5	4/6	4/7
駈歩(m)	2800	*1900	2400	2600	2200	1600
タイム		14.9-13.7			17.9-15.4	
月 日	4/9	4/10	4/11	4/12	4/13	4/14
駈歩(m)	2800	2600	1200	1200	1200	1200
タイム		14.7-13.4				

※ 中段:総駈歩距離(駈歩は2, 3本に分けて実施)

下段:スピード調教時の最終2ハロンのタイム

個体情報の見方については、2～6ページをご覧ください。

- ① セリにて購入後、初めてJRA施設に入きゅうした日
- ② ゲート目標の達成度
目標：前扉を閉めた状態で入れて、
後ろ扉を閉めて駐立し、常歩で出ること
- ③ 熊癖、さく癖、旋回癖、蹴癖、身喰いなどの悪癖
- ④ 育成期間中に発症したり、検査により確認した特筆すべき
疾病並びに休養を要した疾病
- ⑤ 特殊なハミ、手綱、鞍下（中抜き）やメンコなどの使用
- ⑥ 装蹄療法として使用している特殊な蹄鉄
- ⑦ 馬の取り扱いに関する注意事項やその他の特記事項
- ⑧ 育成担当者からの各馬のセールスポイント等

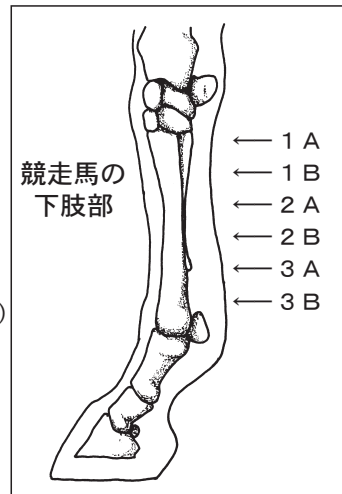
右ページの解説

① ノドの内視鏡検査所見

(各項目の解説は6ページ)

② 屈腱部のエコー検査所見

毛を刈り、騎乗馴致前と3月の2回実施
右図のとおり、屈腱部の6ヵ所(1A～3B)
において、横断像と連続した縦断像を
観察し、その評価および特記事項を記載



③ 化骨評価

腕節部の骨端線の化骨評価をグレードA～Cで示しています

グレードA：骨端線が完全に閉鎖

グレードB：骨端線中央が閉鎖

グレードC：骨端線が残る

※検査時の各個体の月齢をあわせて示しています

※標準的なサラブレッドでは

25ヵ月齢で骨端線が完全に閉鎖するとされています

④ 種子骨評価

球節部の種子骨、全8ヵ所の評価をグレード0～3で示しています

グレード0：骨に異常形成された線状陰影を有さず、辺縁の輪郭も
概ね正常

グレード1：線状陰影を1～2本有する

グレード2：線状陰影を3本以上有する、もしくは辺縁の輪郭が不整

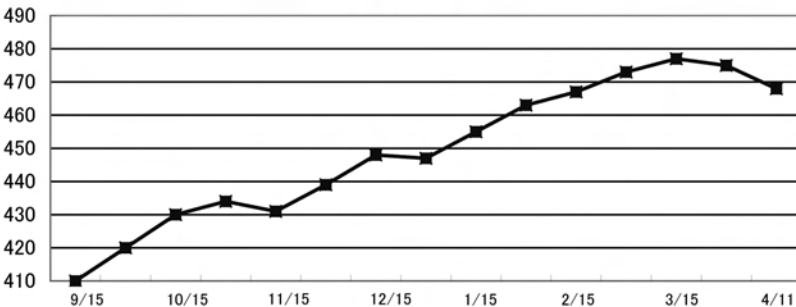
グレード3：線状陰影を多数有し、骨の輪郭が不規則

もしくは骨嚢胞を有する

※前肢は2歳3月のグレードを、後肢は1歳秋のグレードを記載

⑤ 馬体の写真(3月下旬撮影)

個体情報の見方

購買時		744.5 万円(税込)		騎乗供覧タイム		.	.
検査項目	実施日	LH	DDSP	PLH	AE	ELE	
ノド (内視鏡)	10月26日	1	1	1	2	0	
	3月22日	1	(LH再検査)				
	特記事項						
検査項目	検査内容	実施日	検査肢	評価			
屈腱 (エコー)	定期検査①	10月27日	両前肢	異常なし			
	定期検査②	3月10日	両前肢	異常なし(左前肢皮下の肥厚)			
	特記事項						
化骨評価	A						
(検査時：24か月齢)							
種子骨評価	左(外/内)	4	内/外)				
前肢	1 / 0	1	1				
後肢	0 / 0	0	0				
体重の推移							
							
個体情報の見方については2～6ページをご覧ください。						宮崎育成牧場	

ノドの内視鏡検査 解説

ノドの内視鏡検査において観察された各項目の評価をグレード0～3で示しています。

グレード0が最もノーマルな状態です。

○喉頭片麻痺 (LH)

- | | |
|-------------------------|--------------------------------|
| グレード0 (I) | : 左右披裂軟骨の動きが同時に起こる |
| グレード1 (IIa) | : 左右披裂軟骨の動きが同時に起こらないが、十分な外転が可能 |
| グレード2 (IIb, IIIa, IIIb) | : 左右披裂軟骨の動きが同時に起こらず、十分な外転が不可能 |
| グレード3 (IV) | : 左右披裂軟骨の動きに同調性がなく、左の動きが不十分 |

○軟口蓋背方変位 (DDSP)

- | | |
|-------|--------------------------|
| グレード0 | : 嚥下を促しても発症しない |
| グレード1 | : 嚥下により発症するが、続く嚥下1回で復す |
| グレード2 | : 嚥下により発症するが、続く嚥下2回以上で復す |
| グレード3 | : 嚥下を伴わなくても容易に発症する |

○咽頭リンパ過形成 (PLH)

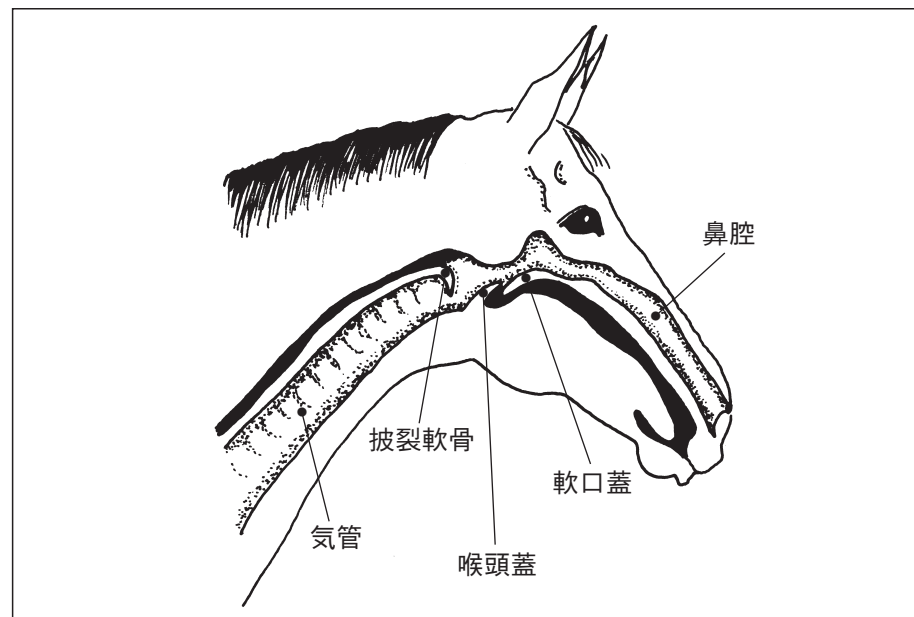
- | | |
|-------|------------------|
| グレード0 | : 不活性なリンパ細胞のみ散在 |
| グレード1 | : 比較的大きなリンパ細胞が散在 |
| グレード2 | : 比較的大きなリンパ細胞が密在 |
| グレード3 | : 水腫状の細胞で咽頭部が埋まる |

○喉頭蓋の異常 (AE)

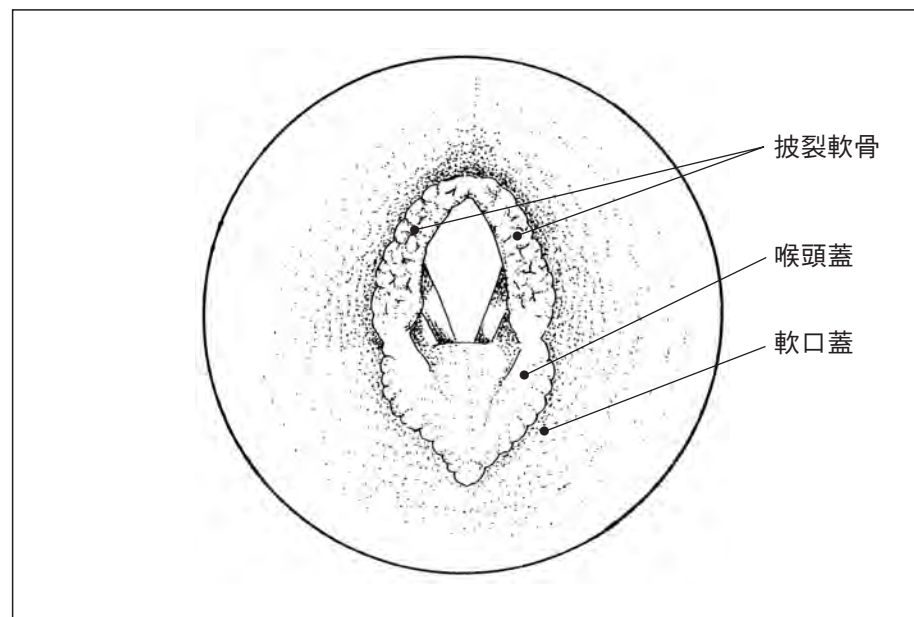
- | | |
|-------|------------------------|
| グレード0 | : 喉頭蓋背面上の凸部、辺縁の皺が明瞭 |
| グレード1 | : 喉頭蓋背面上の凸部が不明瞭 |
| グレード2 | : 喉頭蓋背面上の凸部および辺縁の皺が不明瞭 |
| グレード3 | : 喉頭蓋が非常に薄いあるいは小さい |

○喉頭蓋の挙上 (ELE)

- | | |
|-------|-----------------------------|
| グレード0 | : 挙上がなく、気道の2/3以上が観察可能 |
| グレード1 | : 挙上がわずかにあり、気道の2/3～1/2が観察可能 |
| グレード2 | : 挙上があり、気道の1/2～1/3が観察可能 |
| グレード3 | : 挙上があり、気道の1/3以下が観察可能 |



呼吸時の上気道



ノドの内視鏡像